

長く
たもつ

背景

道路施設は、県民生活や社会経済活動等を支える役割を担うインフラです。埼玉県では高度経済成長期以降、集中的に道路施設を整備してきました。現在、これらの道路施設の老朽化が急速に進行しています。例えば、2041年には建設から50年以上経過した橋りょうは8割を超えます。このため、道路機能を維持し、安全、安心の確保と係るコストの縮減や平準化を図る計画的な維持管理と更新が必要となっています。

◆架設後50年以上経過している橋りょうの割合<図-2>◆



◆竣工年度別橋りょう数の推移<図-1>◆



取組

個別施設計画

- 埼玉県では、重要なインフラである道路機能を保全するために計画的な維持修繕、更新を行うとともに、費用の抑制と平準化を図る「橋りょう保全計画」など道路施設の個別施設計画を策定しています。

計画による効果

- 「橋りょう保全計画」では、修繕及び架換えに要する費用は、今後30年間の推計で、約2,600億円の大規模な縮減効果が得られると見込んでいます。

◆修繕及び架換えに係る費用推計◆



修繕事例

- 橋りょうの長寿命化を図るため、損傷が大きくなる前に対策を実施しています。

